



暗号「たぬきとことりの会話ーくたろこいみ」

海浜幕張公園では、寒さに負けず集まった子どもたちに、ビンゴカードが配られました。縦3横3のマスの中には「木登りをして、カードをとろう」「目隠しゲームにチャレンジ」「暗号解読ーたぬきとことりの会話ーひたろこばにこたある、くたろこいみをとってたこきなこさい」など9項目があり、できたものからシールを貼っていきます。「えーっ!! あんな上にあるカード取るの!?!」と叫んだのに、木登りしてみると意外に上手だった小学4年生の女の子、パンダナでしっかり目隠しされて緊張した幼稚園くらいの男の子は、腰を落とし重心を低くしながら木の間に張ったロープを伝ってゴール。「真っ暗だったけど、ロープ持っていたから平気だったよ!」とシールをもらってニコニコ顔。他にも「虫や動物の食べたあとをみつけよう」「木の赤ちゃんをさがしてみよう」などがあり、参加した子どもたちのカードには、たくさんのシールが貼られていました。「たぬきとことりの暗号」については、皆さんも海浜幕張公園を通った時に見つけてください。



幕張ベイタウンにエコパークをつくる会

ベイタウンで木登りと七草粥

さる1月7日、「幕張ベイタウンにエコパークをつくる会」主催のイベント「野草七草粥を食べよう」が行なわれ、30人が参加した。前半の海浜幕張公園でのフィールドビンゴの後、街の中を野草摘みつつ移動、最後は18番街集会室で“ベイタウンボランティアサークル”の方々が用意した温かいお粥に、ベイタウンで摘んだ野草を入れて七草粥を楽しんだ。



打瀬第二公園周りで野草摘み

ビンゴが終わって、次は野草摘みです。「風の子」たちは元気いっぱいでしたが、寒さに負けそうな大人たちは“温かいお粥”を楽しみに、エコパークの会の小川会長(18番街)や野草に詳しい鈴木さん(2番街)のお話を聞きながら野草を摘みました。春の七草(セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ)のゴギョウ・ハコベラだけでなくクローバー・ヨモギもあり、場所や時季によってはナズナ・オオバコ・カラスノエンドウ・タンポポなども生えているそうです。

七草粥で「無病息災」

18番街到着後、野草を洗い、食べられる部分だけ摘み取りさっとゆでました。それを、ベイタウンボランティアサークルの青木さん、須田さんがお米から炊き上げた一升のお粥に乗せてみんなで食べるのですが、青々とゆであがった野草を見て子どもたち

の間から歓声があがりました。「きれいな緑色〜っ!」「本当に、草って野菜なんだね。」などなど。普段は野菜嫌いの子もたちも、自分たちで摘んだ野草の美味しさに4杯5杯とおかわりをしていました。子どもたちが夢中で食べている間、大人の参加者に感想を伺うと「野草がこんなに食べやすいなんて知らなかった。もっと苦みがあるとと思っていた。」「この街で、こんなにたくさんの食べられる野草が採れるとは思わなかった。」など、いつも歩いている街の新しい面を発見したようでした。

海浜幕張公園でのフィールドビンゴ中に、鳥の巣がみつかりました。小枝の組み合わせだけで、上手に作られた巣を見た時に、枯れ枝・枯れ葉もゴミではないのだと改めて思いました。マンションやコアを建てている隣で、鳥も同じように巣を作っている事を忘れずに“木登りができて、野草が摘める”空間を大切にしたいものです。【浜田】



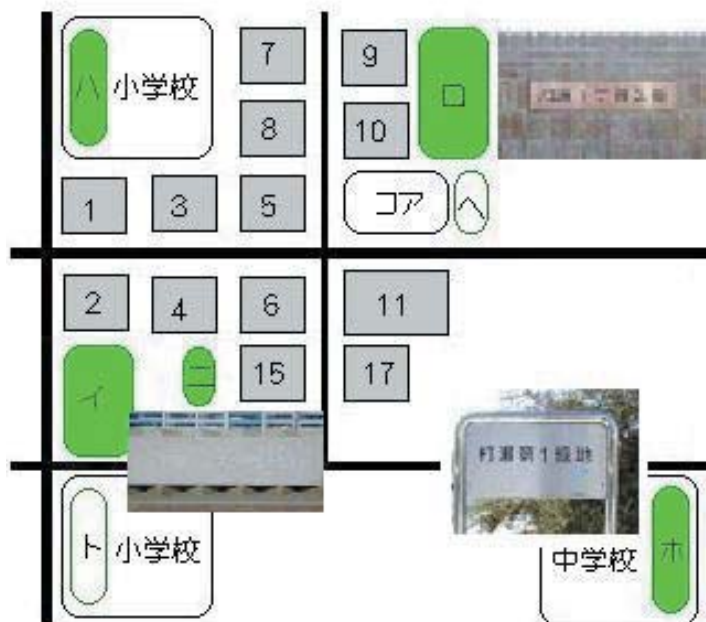
「公園」の名前を住民の手で

建設中の小学校脇で千葉県企業庁が「幕張ベイタウンにエコパークをつくる会」（小川かほる会長、18番街在住）とともに整備を検討している「公園」の名前を、住民の提案をもとに付け直すことで、計画・整備を担当する企業庁と管理を担当する千葉市とが合意に達しました。「エコパークをつくる会」からの要望を受けての措置で、企業庁や市では公園づくりを同会との間で住民参加型で進めていることから、緑区で都市基盤整備公団が地元の小学校と共同で整備した「おゆみ野ふれあい公園」に続く、市内では二例目の試みに踏み切りました。

ベイタウン内の公園・緑地はどれも、企業庁がいったん仮の名前を付けているものの、整備を終えて管理を市に移してからは、企業庁と市との間で1999年2月に決めた名前を正式名称として使っています。小学校脇の「公園」に関して企業庁と市は、「打瀬第3緑地」との名前を用意していました。「エコパークをつくる会」では今回の合意を受けて、名前の公募作業に着手。募集要項を全戸配布し、来る2月24日に公開の名称選定会を開く予定です（募集要項は本誌に挟み込まれています）。

こうした試みが新しい小学校脇の「公園」限りなのか否かは、残念ながらいまの時点ではなんとも言えません。企業庁も市も原則としては「今回限り」との姿勢です。ただ、その一方で、市は「企業庁からの要請があれば」（公園管理課）との構えも見せています。参加型で計画・整備を進めるものなら、道は開かれるのでは——カギを握るのは企業庁ということになりそうです。公園・緑地整備の担当者によれば、参加型で進めるものはいまのところほかにないというものの、公園と緑地とに分けて考えれば、公園に比べて法令などからくる計画内容の制約が少ない緑地で参加型の可能性が見込めるようです。【茂木】

公園・緑地の名前付け三通りもある？



図中記号	企業庁の名前	市の名前	通称
イ	ミッドランドパーク	打瀬2丁目公園	「2丁目公園」「第3公園」
ロ	アクアダクトパーク	打瀬1丁目公園	「新しい公園」
ハ	チルドレンズパーク	打瀬第1公園	「アスレチック」
ニ	タウンガーデンパーク	打瀬第2公園	「赤玉・青玉」
ホ	ジュニアハイスクールエッジ	打瀬第1緑地	？
ヘ	コミュニティセンターガーデン	打瀬第2緑地	？
ト	スクールエッジ	打瀬第3緑地	？

注1)：図中イ、ロ、ハ、ニ、ホは企業庁で整備済みの公園・緑地。

注2)：「企業庁の名前」は企業庁の計画・整備段階での呼び名。市に管理を移した段階で「市の名前」が付く。「通称」は小学生の間で一般に呼ばれている名前。

パティオスの会のパソコン講習会

去る1月20日（土）、打瀬中学校コンピュータ室（CAI教室）でパティオスの会（打瀬中学校保護者と教師の会）企画による、同会の会員を対象としたパソコン講習会が開催された。参加者は30人弱（受講者16名、講師・アシスタント・事務局10名、学校側3名の計29名）、豊富な打瀬中学校の情報機器を使って、ひとり一台のパソコンを使う恵まれた環境での講習会である。しかも講師を務めるのは仕事でパソコンの指導を行うこともあるプロフェッショナル3人。皆さん打瀬中学校生徒のお父さんである。そしてこの講習会をサポートしたのも、パソコンを普段から使い慣れているパティオスの会の会員のお母さん方だ。この講習会のために「打瀬中PCサポーターズ」という組織まで作って、準備してきた。

この講習会には3つの目的がある。ひとつは、中学でパソコンを使うことに慣れた子ども達と、保護者の方がパソコンをキーに対話ができるよう、保護者の方にもパソコンを使えるようになってもらうこと。いわば親子のデジタルデバインド（情報格差）の解消。もうひとつは会の

活動で、配布物や文書類の作成にパソコンを活用し、事務効率をあげる。そして最後に、お父さんたちがパティオスの会の活動に参加できるよう、会の連絡手段としてE-mailを定着させること。なるほどお父さん達はビジネスでパソコンを使っている筈、E-mailなら昼間でも連絡が取り合える。

講習会は4回のシリーズ講座として計画され、今回の講座では、パソコンの初歩的な操作としてマウスの使い方、入力の方法、ワープロソフトの使用法、インターネットおよびE-mail体験をテーマとした講習が行われた。受講者からの評価は上々で、直後に行ったアンケートでは、もっと習いたい、時間を増やしてもらいたいなど、熱心な要望が寄せられているという。受講者、および今回参加できなかった会員からは平日の講座を組んで欲しいという要望が強く、主催者は今後の講座のうち1回を平日に予定している。場所と機材の問題（学校施設を使用するため）などが

あり、相当の努力の末に1日のみ平日の実現が可能となったそうである。

今後はこの催しを地域住民が参加できるようにという声も聞こえて来そうであるが、現在の所はこの講習会を定期的に行える枠組みを作ることには力を注ぎたいとのこと。

昨年11月に行われた「5分で海外旅行」（本誌43号参照）とふたつの企画を成功させたパティオスの会。イベントごとに協力者が増え、裾野は確実に広がっていると感じた。

【松】



渋谷幕張高等学校・同付属中学校

開校：1983 年、生徒数：約 1700 名（高校 1,000 名、中学 700 名）



幕張新都心の開発にはかつて学園都市構想という夢もあった。とん挫したインターナショナルスクールや、早稲田大学の誘致もその夢の産物であった。一見消えてしまったかのような学園都市構想だが、新都心、あるいはベイタウンの街作りに教育の要素は欠かせない。新都心にある教育機関・学校を特集していくことで、幕張新都心の学園都市構想を探ってみた。第 1 回は最近打瀬小中学校からの進学者の増加が著しい「渋幕」取材した。インタビューに応じてくださったのは理事長（校長）の田村哲夫先生。先生は先日答申を出して終了した、教育改革国民会議のメンバーも務められた。大変忙しいスケジュールの中で地域の学校という視点から快く取材に協力していた。

●**渋幕**というと最近では偏差値が非常に高く、御三家といわれる受験校と並ぶほどの進学校というイメージがありますが、渋谷幕張の教育の特色について教えてください。受験重視の教育をしているのですか。

本校の教育の基本は「自調自考」ということにあります。生徒が自分で判断して、自分で決断する。授業の成果を生徒自身で評価し、行事も自分たちで考えています。先生はそのサポート役です。本校は特に進学校を目指した指導をしている訳ではありません。生徒たちが自分で考え努力した結果が一流と言われる大学への進学という形になっているのだと思います。生徒達の選択の結果が進学校というイメージを作っているとしたら、それは嫌がることではないと考

えています。

●**生徒の自主性を育てる**渋幕に入学するためには、厳しい入学試験を突破しなければなりません。一時的に暗記中心の受験勉強をすることになります。これは一種のパラドックスでは？

私にとってもこれは大きな問題です。現在の入試制度のもとでは、公平性を考えると学力試験という選抜方法をとる以外にない。一時的にせよ学習のモチベーションをそぐ受験勉強を強いることになるのは、非常に残念です。正直言って何かいい知恵はないでしょうか、という気持ちです。ですが、本校の特徴のひとつは中高一貫教育にあります。私は人間の発達段階を考えると 12～18 才というこの時期の教育が人間形成に非常に重要であると考えています。よく言われる文系理系の方向が出てくるのもこの頃です。この 6 年間の時期に受験に惑わされずに学園生活を送ることができることに大きな意味があると考えています。

●**新しい教育指導要綱では学校と地域の関係強化が望まれています**が、県外からの通学者も多い渋幕では、地域をどのように捉えているのでしょうか。

私も学校と地域との結びつきは大変大切だと考えています。そのため、本校では地域懇談会という名称で、学長と生徒の保護者との対話を継続的におこなっています。ベイタウンで開いたこともありますよ。ただ、私はコミュニティという言葉、単にひとつの地域に住む人々とは考えていません。同じ目的や文化あるいは考え方をもつ人々の集まり＝コミュニティと言った方が捉えやすいと思います。現代では移動や通信が非常に発達しています。そして今後は情報通信が更に加速し地域コミュニティという考え方も変わってくるでしょう。本校の場合、千葉県あるいはおおまかに言えば首都圏がコミュニティということになると思います。

●**先日の全国高校サッカーでは千葉県代表として全国大会に出場しました。**

昨年行われた千葉県大会で県予選を突破し、念願の全国大会出場を果たしました。スポーツの分野ではテニスや水泳も中学校を含めて常にいい成績を収めています。進学校というイメージがありますが、生徒たちは学業以外の分野でも頑張っています。

校内には、至るところに次の一文が掲げられている。「生徒の皆さん、何か難しいこと、大変困ったことに会った時には、必ず周りを見回し、そこにいる先生をつかまえて話しかけるよう心掛けて下さい。」これは田村学園長が筑波大学学長の江崎玲於奈博士にお願いして、自筆していただいたものだそうだ。 【松】

オープンスクール打瀬小学校の教室構造について（投書より）

きっと、今までもこの問題は保護者の間で何度か出てきた問題だったと思う。「校舎の構造上、音が反響する学習環境」であること。でも、「オープンスクールだからしょうがないよね。」と打瀬小の長所の多さに、欠点のひとつくらいあっても目をつぶろう、と大きな議論にまで発展しなかった、のかもしれない。

しかし、今年度は 800 名を越す児童数だ。特に 2・3 年生棟の音の反響は学習に影響を与えることもあり、先生は授業を理解させるだけでなく「騒音対策」までされるご苦労だ。先生だけにご苦労させては申し訳ない、と 2 年生の茶話会で議題に取り上げた。吸音材を反響音のひどい部分に貼り付けたらどうか、をはじめいろいろなアイデアや意見が出て、先生方と保護者が共に考えあうことができた一歩となった。

第二小学校（仮称）は打瀬小の音が反響するという反省点を踏まえて設計されている。しかし 6 年後の打瀬小児童数 813 名（推計）と書かれた教育委員会からの資料を読み、愕然とした。打瀬小の反省点は反省点のまま放置されてしまうのだろうか、と。

私は教育を語る会（注 1）で、「第二小と学習環境に差がでることのないよう、打瀬小の学習環境も改善していただきたい。」と申し上げた。すると「打瀬の会（注 2）と共に考えていきたい。」と回答をいただき、それを受けて打瀬の会に「構造上音が反響する環境をよりよい学習環境にできるよう、みんなで考えていきたい。」と、問題提起させていただいた。

打瀬の会は、保護者の意見をまとめ学校と共に教育委員会へ働きかけていくと決議し、さらに役員研修として市内にあるオー

プンスクールへ見学することも決まった。校長先生も、「教育委員会へ働きかけていく。」とおっしゃって下さった。しかも、その翌週にはさっそく、2 年 4 組後方にカーテンが設置され、予算内でできる事にはスピーディに対応して下さい、教育委員会施設課との打ち合わせも始められた。

オープンスクールのメリットを十分駆使して素晴らしい授業を展開している打瀬小だ。更により良い学習環境の為に、学校と保護者が教育委員会に向かって足並みを揃えて歩み始めた。きっと地域の皆さんも応援して下さい。そうならば、学校と保護者と地域の 3 人 4 脚のトライアングルハーモニーが響きわたるにちがいない。

この響きによって 1 日も早く教育委員会が予算を組んで快適な学習環境を整えてくれることを心から祈っている新春である。

【匿名希望】

注 1 教育を語る会：打瀬小の保護者と担任の先生が教育の内容について意見を交換する会。

●あの時のご親切にお礼が言いたい（投書から）

昨暮の12月23日（土）午後3時頃、孫を連れ公園へ向かう途中、16番街角で孫を抱いたまま、マンションのまわりのチェーンにつまづき転倒してしまいました。驚いて泣き叫ぶ孫、右肘に激痛。しかし、近くに人影はなく、どうしよう！と孫をなだめていた時、車から若いご夫婦？が走り寄ってくださり、救急車と家族への連絡を素早くしてくださいました。本当に助かった！お陰様で孫には何事もなく、私は右肘頭複雑骨折で入院、手術となり、お正月も病院で過ごしました。

怪我から早一ヶ月、日々快方に向かっていますが、あの時ご親切にいただいた方のお名前も伺っておらず、もしこの投書をご覧になりましたら、ぜひご一報頂きたく筆をとりました。

シニアクラブ新春茶話会

去る1月21日（日）、パティオス3番街集会室で今年も恒例のベイトウンシニアクラブ新春茶話会が開催されました。今年のお茶、お菓子をいただきながら、アトラクション（腹話術「ケンちゃんの長生きのひけつ」：パティオス16番街山中さん、ピアノ演奏「庭の千草変奏曲」：パティオス6番街西山さん）や飛び入りの歌を楽しみました。



打瀬小学校 地域交流特別クラブ開催

■日時：2/17（土）10:30～11:30

■場所：打瀬小学校高学年棟入口にて受付してください。

地域交流特別クラブは、地域の皆さんが講師となって子供たちと行う授業です。今回は約20講座が準備され、「工作」や「グランドゴルフ」、「将棋」などのクラブが学校内の各教室で行われます。保護者以外の方の参観も可能です。子供たちと地域の大人の交流を見に出かけませんか。

ホストファミリー募集!!

アメリカの大学からの留学生を受け入れてくださるご家庭を募集しています。

■滞在期間：＜春学期＞2001年3月31日より7月29日

■春学期締め切り：2月15日

尚、週末のみ・サマースクール・秋学期なども随時募集しております。まずは、電話・FAXでお問い合わせ下さい。

■IES 全米大学連盟東京留学センター

TEL:043-211-8678 FAX:043-211-8677

編

■正月が終わり、田舎から帰ってきてマンション内のエレベータで小学一年生のK君に会いました。「こんにちわ」と後ろから声を掛けると、「ア！」と振り向き、改めてこちらに向き直して「あけましておめでとうございます。今年もよろしくおねがいします」ときちんと挨拶を返してくれました。久しぶりにいい新年を迎えた気分です。

コミュニティに子どもたちがいるというのは、実に素晴らしいことです。

技術：#10-612 松村守康（T&F211-6853/m-matz@mxq.meshnet.or.jp）

■今号から、ベイトウン内の話題のお店を紹介する「お店物語」がスタートしました。初回は三番街の「クラックラン」ですが、パティオの外廊下から厨房が少しだけのぞけます。朝早くから電気が灯り、クリスマス時期には夜遅くまで働く南さんたちの姿が見えました。

今回お話をうかがう機会を得て、さらにお菓子づくりへの愛情と仕事への真摯な態度を知ることができました。スーパーに並んでいるものを買うだけの今の子どもたちに、もっともったものづくりの現場を見てもらいたいと感じた取材でした。

タウンスケッチ記者：#3-310 佐藤則子（T&F211-0090）

■いつだったか母親と名前の話をしたとき。危うく「セコイヤ」という名前にされそうだったことがわかって、びっくり。世界一高い木という、あれですね。「世界一」というところがすごそうだし、姓との相性はいいんでしょうが、響きがよくない。「せこいやツ」なんて思われそうで。やっぱり名前は、言葉の響きを大事にしたいものです。しばらく休んでましたが、今月号から復帰します。遅ればせながら、今年もよろしくお願いします。

後

記者：#7-301 茂木俊輔（T&F211-1066/m38032@pp.ij4u.or.jp）

■今回の七草粥のイベントの時に「エコパークをつくる会」の方々から面白い絵本を教えてくださいました。「おいしい野草見る図鑑感じる図鑑」「ふゆめがっしょうだん かがくのとも傑作集」とともに福音館書店／「山菜と野草その料理メモ 北隆館」の三冊です。

皆さんも、たまには道具や遊具を使わず“自然探し”で遊んでみませんか。「また、お粥をつくられた青木さんは、打瀬中学校で第三土曜10時半～12時半まで「エコクッキング」という料理会を開いています。興味ある方は、一度御覧ください。※2月は打瀬小」。

「楽しいイベントに『わっ』と参加し、人の和の輪を広げよう」

記者：# 公園東 浜田貴代子（atmark@pop01.odn.ne.jp）

■厳寒のソウルへ！

20年ぶりに-20℃を記録したと聞き、トランクいっぱい服を詰め込んで出かけたものの、着いた日から寒さが緩み-5～-8℃くらい。

それでも充分寒く、ソウルっ子が「今日は良い陽気！」を連発しながら軽装で闊歩しているのを横目に、当方は着膨れ状態。

それにしても、ソウルの中心を流れる幅約1.5kmの漢江が完全に氷結しているのには驚いた！（通勤途中に電車で渡る荒川が凍っているようなものだから）。

企画：#3-220 金一剛（T&F211-0388/ikkim@xa2.so-

集

記

ベイトウンニュースの配布を手伝ってくださるサポーターを募集しています！

ベイトウンニュースは毎月ボランティアで配布をしてくださるサポーターの皆さんの手でベイトウンの全戸にお届けしています。連絡先：#10-612 松村守康（T&F211-6853、e-mail：m-matz@mxq.meshnet.or.jp）

医学と音楽の分野で人類に大きな貢献をした偉人、A・シュバイツァー博士にあこがれてピアノと医学を学んだ辻内さん。心と医学の接点を求めて仏教医学の研究にチベットで生活したこともあるという。夢は、音楽を医学の分野で生かすこと。

ピンと張りつめた演奏会場の空気に即興演奏のピアノの音が響いていく。自由に悠然と。束縛を放たれた演奏者の心はピアノと

つじうち

辻内 琢也さん

(公園東の街在住)

の街在住の辻内さん。心療内科のお医者さんである。幼い頃からピアノを習い始め、大学で医学を学び始めてからも音楽家になる夢を捨てきれず迷ったこともあったという。悩んだ末に、やはり医学者として生きる道を選んだ。心療内科とは耳慣れない分野であるが、辻内さんによると、「人間を身体だけでなく、心理・社会・文化的な存在として捉え、病いの原因を心身両面およびその人の属する集団や社会との関連の中で探り、治療する」ものだそうだ。人間関係から来るストレスとか、フラストレーションの医学的な治療ということだろうか。

現在は心療内科医として都内の病院にお勤めであるが、同時に辻内さんにはもうひとつの肩書きがある。某大学の大学院博士課程で医療人類学を学ぶ大学院生という身分だ。科学的な思考力の鈍い記者には非常に難しい話になってきたが、どうやら人間の精神世界の探求を更に深め、医学との接点を探りたいということのようである。

そんな辻内さんはピアノの即興演奏にこだわる。医学を志してからはピアノは趣味と割り切って演奏していたが、「心の探究をしているうちに、自然に即興演奏ができるようになってき

た」という。それまでは楽譜に従い、頭の中で考えながら弾いていたピアノが「あるときふと自分の心を自然にピアノに任せる」ことができるようになった。今では「音楽が自然に降ってくる」ようで、逆に考えて弾いていると、奥様にもその不自然さを注意されるという。「一種の瞑想的な世界」と辻内さんは語ってくれた。なるほど、ここまで来るとチベット仏教やシャーマニズムとの関連もあるのかと、少しは私にも分かってきた。趣味と割り切って続けてきたピアノ演奏が、あるいは医学との接点を持つかも知れない。

辻内さんは同じ心療内科医の奥様と、来年新しくできたばかりの第二小学校(仮称)に新入生で入学する6才のお嬢様の3人家族。Who's Who 恒例の写真撮影は、もちろんご自宅リビングのグランドピアノに向かっていただいた。

【松】



ベイトウン
お店物語 1
Craquelin
(クラックラン)
Patios 3 番街

行で、ザ・アテナなどで修業しながら95年から98年にかけて滞在し、二人はそこで出会いました。実家(名古屋)のお菓子屋さんを小さい時から手伝って育った行信さんはコンピュータ設計技師からの転職組。いっぽう素子さんはツアーコンダクター時代、趣味だったお菓子づくりを本格的に学ぶためにパリへ。

二人は修業のかたわらフランス各地のお菓子を食べ歩き、地方で食べた焼きっぱなしのタルトなど素朴で何でも食べたくなるお菓子の魅力に惹かれたといいます。

「素朴なだけに焼き方や素材が違うと全く味が変わってしまう、そんな奥の深さが焼き菓子にはあるんです」

話題のお店を紹介する新シリーズ第一弾

店名はフランス語で「かりかりした焼き菓子」という意味。お店の若き経営者、南行信さんと素子さん夫妻は、お二人ともフランスで本格的に修業した「パティシエ(菓子職人)」です。信さんはパリで一番古いお菓子屋さん「ストレー」素子さんは同じくパリのホテル「ミュリス」「プラ



「赤字覚悟でもよいものを作りたい」とこだわっているのが素材。小麦粉は北海道から、フランスのものに味が近いという理由で九州から取り寄せている発酵バター、卵は毎週50キロを船橋市内の養鶏園に買い付けに出かけているそうです。おいしさの秘密はこんなところにあったんですね。

外からは「楽しそう!」に見えるお菓子づくりの仕事も実は重労働で、30キロの小麦粉の袋を持ち上げるなど序の口。「女性だからといって誰も助けてくれません」と素子さん。朝7時から夜9時ぐらまで働き、今のところ「外食」でしのぐ生活。夫婦であって「職人」同士、時々作り方の手順をめぐって喧嘩もあるとか。

しかし、ベイトウンの「将来性」に夢を託したお二人。「何度でも食べたくなるお菓子を作りたい」「お菓子を通してフランスの文化を感じてもらえるような“発見”の場になれば」と、この4カ月間の手応えを感じつつ夢をふくらませているようです。ホームページは「<http://www.cpf-craquelin.com/>」(TEL:213-0238)【取材/金・佐藤】



店内にはそうしたフランス各地の焼き菓子を中心に30~40種類が並んでいます。特にブルターニュ地方のお菓子は有塩バター独特の塩と砂糖の取り合わせがおもしろく、お店でも果実を優しく焼き込んだ「ファブルトン」は早くも人気商品になっています。

◆「教えて!」もらいました

簡単クレームブリュレのレシピ(6個分)

●用意するもの: 高さ3.5cm、直径6.8cmのココット型6個、牛乳68cc、生クリーム・乳脂肪分(35%)200cc、バニラ1/4本、砂糖35g、卵黄2コ。

(1) オーブンを150℃にしておく。(2) なべに牛乳・生クリーム・バニラ・砂糖をいれ、沸騰させたらそのまま置いておく。(3) その間に卵黄と卵白を分けておく。(4) 少し冷えた(2)を(3)の卵黄にゆっくりと注いで、泡だて器を使って混ぜる。(5) ココット型に流し込み、湯せんをした天板の上に載せ、アルミホイルでふたをする。150℃のオーブンで約35分。ゆらして表面全体がぶるんとゆれるようになったら(ゆらしてまん中だけがゆれるようだと、まだ)、一度出して冷蔵庫で30分程冷やす。(6) それに適量のグラニュー糖(分量外)をふって、グリル上段で3分程焼き、コンガリ焼き色がついたら出来上がり!



「よいしょ！」ぺったん、”新春もちつき会”

千葉市立打瀬中学校長 石原 通男

1月13日(土)、この冬一番の寒波襲来とのことで朝晩の冷え込みは大変厳しく、寒い一日でありましたが、本校を会場にして恒例の打瀬中学校区青少年育成委員会主催(青少年相談員共催)の”新春もちつき会”が盛大に行われました。

この育成委員会主催のもちつき会は今年で3回目になると聞いております。昨年度は、冬休みに入っすぐの暮れの25日に、ベイタウンの美浜プロムナードの一角を会場にして行われました。沢山の方々が参加され大変な賑わ

いであったことを覚えています。

今年も小・中学生はもちろん、母親にだっこされた幼児や孫の手を引く祖父母の方々等、地域にお住まいの老若男女たくさんの方々が参加されました。

「よいしょ！」ぺったん、「よいしょ！」ぺったん、・・・と、掛け声を合わせながら杵つく音と子どもたちの歓声が明るく響きわたりました。子ども達にとって思い出に残る楽しいもちつき会となったことと思います。

中学生は、休日は部活動に参加する生徒が多く、対外試合や練習等のために学校外で行われる地域行事への参加が時間的に難しい傾向が見られます。今回は、中学生もより

多く参加できるようにと、開催時期を年明けの3学期早々とし、中学校へ会場を移してのもちつき会となりました。そうしたことから、今年は昨年に比べ本校性との参加も多かったように思います。

7～8人のグループごとに、指導にあたる育成委員さんの助けを借りながら、自分たちで餅をつきあげました。つきあてのお餅を小さく契ってもらい、手で丸餅をつくりお醤油をつけ海苔を巻いたり、あんこを入れてあんころ餅にしたり、はたまた、きな粉をまぶした安倍川餅にしたりと、楽しそうに餅づくりに取り組む子どもたちの姿が大変印象的でありました。

できたての安倍川餅と一緒にごちそうになりました。杵つく音を聞きながら、頬張ったお餅の味は、格別のものでありました。

50キロほどの餅米を25臼ほどつきあげたと聞きましたが、この日も朝早くから準備にあたられた皆さんのお骨折りは大変なものであったと思います。

地域の”子どもたちのために”と、この日に向けて大変な時間と労力を費やされてご苦労された会長の君島さん、レク部長の大武さんをはじめとする育成委員の皆様は心から敬意と感謝を申し上げるものです。



「もうできたかな?・・・」



「私、あんころ餅にしよう・・・と」

@Space

水泳部

1月28日(日) 第18回 千葉市中学校水泳新人大会 稲毛インターナショナルスイミング

女子

100m 自由形	5 位	寺下侑希	1' 8" 98
50m 平泳ぎ	7 位	川松裕未	43" 58
100m 平泳ぎ	7 位	川松裕未	1' 37" 98
50m 背泳ぎ	5 位	大島茉莉奈	54" 8
100m 背泳ぎ	2 位	太田佳織	1' 36" 45
100m 背泳ぎ	3 位	大島茉莉奈	2' 0" 56
50m バタフライ	8 位	太田佳織	0" 22
100m バタフライ	2 位	関 詩織	1' 43" 1
200m 個人メドレー		寺下侑希	2' 54" 71
200m リレー			2' 18" 73
200m メドレーリレー			2' 35" 74

男子

50m 自由形	3 位	金森友朗	28" 11
50m 平泳ぎ	1 位	菅沼克俊	35" 13
	3 位	金森友朗	36" 78
100m 平泳ぎ	3 位	池田正剛	1' 24" 36
50m 背泳ぎ	2 位	菅沼克俊	32" 91
100m 背泳ぎ	4 位	池田正剛	1' 23" 32
50m バタフライ	6 位	窪田明洋	34 " 3
100m バタフライ	2 位	窪田明洋	1' 21" 18
	4 位	市岡揚一郎	1' 33" 37
	7 位	宮城嶋庸平	1' 58" 46
200m 個人メドレー	8 位	宮城嶋庸平	3' 52" 62
200m リレー	1 位		1' 59" 6
200m	1 位		2' 13" 28

6 年前、0 からスタートした水泳部もやっと千葉市の頂点に立つことができました。これも先輩たちが築いてきたチームワークのおかげです。ありがとうございました。

(顧問：木村 談)

バスケットボール部

1月21日 バスケットボール祭 ポートアリーナ

中央区、稲毛区、花見川区、若葉区、緑区、美浜区の対抗戦。

美浜区は男子2位、女子は3位という結果でした。打瀬中からの代表選手として男子キャプテン日高君と女子キャプテン江崎さんが出場しました。

(顧問：伊藤 談)

1月27日、28日千葉市中学校バスケットボール1年生大会

男子：誉田中

女子：稲浜中

1回戦 打瀬中 対 誉田中 (33 - 18)

1回戦 打瀬中 対 犢橋中 (38 - 15)

2回戦 打瀬中 対 山王中 (55 - 17)

2回戦 打瀬中 対 緑ヶ丘中 (63 - 4)

2月4日(日) 決勝戦へ進出

2月4日(日) 決勝戦へ進出

生徒は大変良く頑張りました！ good.

(顧問：伊藤 談)

陸上競技部

1月14日 千葉県クロスカンントリー大会 検見川グラウンド

中学男子3kmの部 第5位 佐藤 遼太

第6位 武 洋一郎

アップダウンの激しいコース。平地ばかりで練習している打瀬中陸上部には、心臓にも脚にも、こたえました。入賞した佐藤君、武君おめでとう。完走したみなさん、お疲れ様でした。

(顧問： 渡邊談)